

ベスト100入り コンパクトさ高評価

佐用町光都のX線自由電子レーザー施設「SACLA(さくら)」が、日本デザイン振興会(東京都)主催の2013年度グッドデザイン賞を受賞した。理化学研究所の施設が受賞したのは初めて。同振興会の審査委員会が、今年度の全国のグッドデザイン賞1212件の中から、特に高く評価したものを選ぶ「グッドデザインベスト100」にも入った。

さくらは、物質を透過するX線とレーザーの特長を併せ持つ「X線自由電子レーザー」を発生させる最先端の分析施設。2012年3月に供用を開始した。以来、計106件の実験が今年度末までに行われる。

さくらが生み出すX線自由電子レーザーの波長は、世界最短の0.63Å(オンゲストロームは100億分

の1分)。欧米にある類似施設が全長約3〜4キロの大きさなのに対し、さくらは約700分のコンパクトな点が評価された。

審査員は「原子レベルで物質の動きを観察でき、産業や工業製品のあり方を劇的に変化させる可能性がある。デザインという範囲を超えた未来を担うプロジェクト」と評した。

施設を運営する理化学研究所放射光科学総合研究センターの石川哲也センター長は「人間の知的活動の発展に貢献できるような努力を重ねたい」とコメントした。

X線自由電子レーザー施設「SACLA(さくら)」(左)と大型放射光施設「SPRING-8(スプリング8)」(ドーナツ形部分、佐用町で)

